

別紙

前年度の温室効果ガスの排出の量及び排出削減計画に基づき実施した措置の状況

氏名	(法人にあっては名称) 株式会社ウェルファムフーズ		住所	(法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒102 - 0074 東京都千代田区九段南2-1-30	
本票作成	部署名： リスクマネジメント部				
主たる業種	分類コード	09	業種名： 食料品製造業		
事業の概要	ブロイラーの肥育、処理、加工： 岡山事業所従業員 190人				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	岡山事業所岡山工場		新見市西方1567	
	②	岡山事業所吉家E農場		高梁市備中町西山2415	
	③	岡山事業所足見A農場		新見市土橋37	
	④	岡山事業所足見B農場		新見市足見2177	
	⑤	岡山事業所豊永A農場		新見市豊永赤馬3240-1	
⑥	岡山事業所吉家B農場		高梁市備中町西山2540-2		
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 20 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

温室効果ガス排出量	基準年度(平成 21 年度)	(平成 26)年度排出量	目標年度(平成 26 年度)
	10,360 t CO ₂	10,816 t CO ₂	11,511 t CO ₂

主な工場等の排出量	番号	工場等の名称	(平成 26)年度排出量
	①	岡山事業所岡山工場	6,260 t CO ₂
	②	岡山事業所吉家E農場	416 t CO ₂
	③	岡山事業所足見A農場	365 t CO ₂
	④	岡山事業所足見B農場	293 t CO ₂
	⑤	岡山事業所豊永A農場	300 t CO ₂
⑥	岡山事業所吉家B農場	213 t CO ₂	

削減目標の達成状況	計画期間： 平成 22 年度 ～ 平成 26 年度 (5 箇年度)			
	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	(26)年度削減実績	目標削減率	目標達成
	<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準	13.8 %	5.0 %	<input checked="" type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 未達

(原単位基準の削減目標を選択している場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 岡山工場の生鳥処理重量 (トン)	原単位当たり排出量		
		基準年度	(26)年度	目標年度
		0.457 t CO ₂ /(トン)	0.394 t CO ₂ /(トン)	0.434 t CO ₂ /(トン)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク指標の状況	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値(平成 26 年度)	達成率等

【削減状況の自己評価】

- ・工場では、増産のため使用エネルギーが増加したが、原単位の分母の農場から出荷される生鳥原料の重量増加により、原単位は改善した。
- ・一方、農場では、従来よりLPGから廃棄物(鶏糞)ボイラーへの熱源の変換を進めているが、同ボイラーの補助燃料の一部をLPGからRPFに切り替え、CO₂発生量を抑え込むことができた。
- ・これらにより、岡山事業所全体では、目標値を達成できた。

【推進体制】

- ・岡山工場を運営する製造部、農場を運営する農場部それぞれにエネルギー管理員有資格者を配して省エネルギーに取り組んでいる。
- ・製造部では、製造課・工務チームを、平成27年4月に工務課として独立させ、より機器の管理や使用エネルギーの効率化を図れる体制となった。

【目標削減率達成のために実施した措置及び今後の取組】

工場等の名称	実施した措置及び今後の取組の内容
①農場部	<p>(平成26年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農場では従来よりCO2削減のため、雛の飼育に必要な熱源に廃棄物（鶏糞）ボイラーを利用している。昨年同様、ボイラーの補助燃料としてLPG以外に、ごみ固形燃料（RPF）も使用することによりLPG使用量を削減できた。 ・鶏舎敷料に使用するオガ粉の保管場所を農場近接地とし、輸送にかかるエネルギーを削減した。 <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給餌器更新によって廃材となるプラスチック類を単純に産廃処理するのではなく固形燃料（RPF）の原料として再利用する。
②製造部（工場）	<p>(平成26年度実施分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場では平成25年度制作した、管理標準に基づき、新受電設備新設、生鳥置場照明を水銀灯からLED化、冷蔵庫照明を水銀灯からH f 蛍光灯化などを実施。又、工場内生産ラインにて使用する水の節水にてエネルギーを削減した。 <p>(今後実施予定分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備投資が進み新たな管理標準の製作。 ・工場内設備用モーターのトップランナー化。 ・エネルギー管理員の増員。

【森林保全等吸収源対策への取組】

県内での取組	無	
その他	無	

【再生可能エネルギーの導入】

県内での取組	有	鶏糞焼却炉の熱を隣接する鶏舎で使用する熱源（以前はLPG）として、11農場で使用している。（前年度比増減なし）
その他	無	

【その他特記事項】

輸送にかかるエネルギー削減のため下記二点を実施している。

①すべての農場で発生する鶏糞の農場からの搬出を抑制するため、農場に焼却炉を設置して、農場外に搬出される廃棄物の量を大幅に減少できている。

②岡山工場では、製品（鶏肉）の輸送は、氷蔵で実施していたが、氷の重量が製品比 5～10%になるため、チルド処理の装置を導入し、氷蔵での輸送時にくらべ製品重量あたりの輸送台数を削減できている。